

| 著書, 学術論文等の名称 | 単著 共著 の別 | 発行又は発表 の年月 | 発行所, 発表雑誌等 又は発表学会等の 名称 | 概 要 |
|---|----------------|---------------|------------------------------|---|
| 1 (著書) 「第8章3節 医療機関との連携」 「第9章3節 子どもの生命を守るための地域との連携」 | 単著 | 2022年3月 | 保育者論(みらい) | 保育士指定科目『保育者論』にて, 保育士が習得すべき事項のうち, 多職種・他機関連携に関する内容を担当する。具体的には, 医療機関との連携(発達に違和のある子どもの発見から医療機関受診への支援過程, 保護者対応, 医療従事者との意見交流時の留意点等), 要保護児童地域対策協議会の解説, 児童虐待防止および要支援家庭への多職種連携, 保育者の役割について解説。(総ページ数:7頁)(著者:西村いづみ) |
| 2 学齢期の発達障害児と家族の支援に向けて | 単著 | 2020年10月 | 社会再構築の挑戦—地域・多様性・未来—(ミネルヴァ書房) | 学齢期発達障害児の母親に対し面接調査を実施した結果, 発達障害であることに起因する不利益から子どもを保護すると同時に, 「不適応」とみなされる子どもの行動を制御しようとする事, 障害専門ではなくとも, わが子を理解し受容する人・場の重要性などが認められた。就学以降も子どもと家族に伴走し続ける支援体制が求められる。(総ページ数:16頁)(著者:西村いづみ) |
| 3 (学術論文) 「新型コロナウイルス禍における学内保育実習の試み——児童福祉施設との協同」 | 共著 | 2021年3月 | 広島国際大学医療福祉学科紀要第16・17(合併)号 | コロナウイルス感染症による臨地実習(保育)の代替措置として, ICTを活用した学内実習を企画・実施した。取組の実際と課題について報告した。(総ページ数:22頁)(岡本晴美, 西村いづみ, 光盛由美) 担当部分の概要:「母子生活支援施設との協同によるプログラム実施の実際と学生の学び」を担当。オンライン・リアルタイムによる施設利用児への設定保育やVRゴーグルによるウェブ施設見学等の実践, および当該施設職員へのインタビュー調査を担当。(担当ページ, pp.84~89, 単著) |
| 4 「放課後活動利用にみる発達障害児と家族の社会状況—母親を対象としたインタビュー調査からの考察— | 単著 | 2018年11月 | 子ども家庭福祉研究第18号 | 発達障害児をもつ母親に対し放課後活動利用に関するインタビュー調査を実施した。結果, 母親は, 子どもの社会的居場所を放課後活動に求めること等が明らかになった。放課後活動の選択には発達障害児者支援体制が機能していないことに起因する子どもの将来に対する母親の不安が影響していることが示唆された。(総頁数:18頁)(著者:西村いづみ) |
| 5 (発表) 放課後等デイサービス事業所からの情報提供のあり方に関する検討—利用児の保護者を対象とした質問紙調査— | 単独 | 2017年10月 | 日本社会福祉学会第65回大会(東京都八王子市) | 質問紙調査により, 放課後等デイサービス事業所を利用する子どもの保護者が認識する事業所からの情報提供の実態等を明らかにした。同じ方法でも, 情報の内容や, 受け手(回答者)の状況に合わせたものであるかによって事業所への満足度が異なることが認められた。また, 伝える内容には, 利用児への職員の対応とその結果(利用児の反応), 今後の対応方針まで示されることに満足感を得ていた。限られた時間の中で, 保護者に要点を伝える技術の習得が職員に求められる。(発表者:西村いづみ) |